

翻訳にあたっての課題点	方針
1. 範囲	
・翻訳範囲 – プロダクト レベル (Sakai/CLE 2.9.x?, Sakai/OAE)	
・翻訳範囲 – Sakai CLE レベル (Contrib (SCORM, Assignment2, Gradebook2, Dashboardなど), HELP/XMLファイル)	
・適用分野(授業, 研修)に応じたバリエーション	
・用語の切り分け(Sakai固有のものとLMS/CMSなどの一般的な用語)	
2. スケジュール	
・カンファレンスなどのマイルストーンを考慮したマスタースケジュール	
3. ツール	
・翻訳ツールの選定 (benten もしくは トランスレーションメモリー互換ツール)	
・分担作業成果物のMerge	
4. 体制	
・翻訳体制	
・分担	
・Ja Sakaiにおけるレビューア, 翻訳者等の役割分担.	
5. プロセス	
・複数候補がある翻訳に対する確定方法.	
・コーディネーション (プロジェクト管理)	
・著作権 (CLA/CCLA), 翻訳権 調査・許諾	
6. 成果物/報告	

・翻訳ツールのユーザガイド	
・用語集	
・翻訳ルール/ガイドライン。(句読点, 半角英数字前後の空白, ですます/である調, 下さい/ください)	
・AXIES/OSS部会における成果報告.	
7. 翻訳実施	
・誤訳を見つけた場合の課題管理方法. JaSakai JIRA or 本家JIRA	
・大学ごとの用語の違いへの対応	
・逐語訳は避けたい(ようこそ XXへ. )	
・モジュール間整合性, 文脈依存の候補選択基準	
・翻訳ができない場合のプロセス. ソースコード変更を伴う場合.	
・既訳でオリジナルが変更されている場合の対応.	
・double byte圏で生じる特有の課題(double byteを考慮したメッセージなど)	
・イメージ内のテキスト翻訳.	
X. 翻訳関連以外の課題	
・産学協同における役割分担. ビジネスをするうえでのbug対応.	
・コード修正が必要なbug対応.(複数大学Fundによる解決など)	